

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 83

令和8年7月16日発行

よりよく生きる

1年生道徳授業の紹介「ふれあい直売所」(読み物資料)

【資料のあらすじ】

主人公は、地域の人との信頼を大切にしながら直売所を続けています。しかし、代金を払わずに商品を持ち去る人や、お金が合わないことがあり、「このまま続けてもよいのだろうか」と悩みます。妹からも「無人販売では経営が成り立たない」と言われ、主人公の迷いは大きくなります。そんな中、直売所を利用する親子が、決まりを守りながら感謝の気持ちで買い物をしている姿を目にします。その様子から、主人公は人と人との信頼や思いやりがあるからこそ、直売所は成り立っていることを改めて実感し、これからも直売所を続けようと決意します。

私がこれからも直売所を続けていこうと思ったのは、どんな思いからだろう？(生徒の意見)

- ・直売所を喜んでくれている人がいることを知ったから。
- ・お金が合わなくても、だいたいの方は払ってくれていると思ったから。
- ・「野菜をありがとうございました」と言ってくれた言葉がうれしかったから。
- ・地元の人に役に立っているこの直売所が好きだから。
- ・人が温かい、この地域が本当に好きだと思えたから。

今日の学習を通して学んだことや感じたことを書こう。(道徳ノートより)

- ・自分が好きだと思ったことは、続けることができるんだなと思った。誰も見ていないから不正をする、ということは、よくないと改めて考えた。
- ・この学習では、決まりを守ることの大切さを学びました。また、自分がやろうと決めたことは、最後まで諦めずにやりきることが人を喜ばせ、その喜んだ人の声を聞いて自分が喜んで、また頑張ろうという気持ちにつながっていくんだなと思いました。
- ・何かしたいこととか、したくないこととか、どれを選択するかはその人の自由だとしても、誰かを傷付けたりする選択をするのはよくないと思った(この話だったら、お金が合わない＝きちんと払っていない)。そして、自分自身が何かやりたいことがあったときに、なんでそれがしたいのかを考えれば、したいことの実現につながると思った。また、そのときにしたいこと(例えば、私はスマホを学校に持っていきたいとか)を思っても、それは「きまりを守る」ことに反してしまうから、「きまり」ということも頭に入れて考えていくべきだと思った。

利用者の誠実な行動や感謝の気持ちに触れたことで、主人公は信頼によって地域のつながりが支えられていることを改めて実感します。この教材は、社会は一人一人がルールや約束を守り、相手を思いやる心を持つことで成り立っていることを伝えています。そして、自分もよりよい社会をつくる一員として、責任ある行動を心掛けることの大切さを学ぶことができる教材でした。